

静岡県地域史研究会報

— 静岡県地域史研究会 —

第四十五回総会報告

第四十五回総会及び記念講演は、去る九月二十三日（火、祝日）午後二時より静岡市葵区のあざれあを会場に開催された。次第は次の通り。

一 総会

- (一) 議長選出
- (二) 会務報告
- (三) 研究誌報告
- (四) 会計報告
- (五) 会計監査報告
- (六) 新年度役員選出
- (七) 新年度の活動方針
- (八) 新年度の予算審議
- (九) その他

二 記念講演

「上方・江戸間の海運史―幕

藩制流通構造の一端―」

講師 日本福祉大学教授 曲田浩和氏

総会は、森田香司氏の司会により始まった。小和田哲男会長の挨拶の後、議長に柴 雅房氏を選出し、右記の次第にしたがって進められた。議事詳細については、後掲の通りである。午後三時から記念講演が行われ、午後五時に散会した。

記念講演の要

旨は、来年九月刊行する研究誌第十六号に収載する予定である。

二〇二四年度会務報告・研究誌報告・会計報告・会計監査報告

一年間の例会十回で計一六名参加し、一回の参加者は昨年より七名減った。

減った理由は、書評会が多すぎたこと。十月・十一月・二月・四月・五月と五回行った。『東海の中世史』の書評会は関心が高く多かったが、そうでないものは少なかった。

例会参加者が十名以下の例会は十一月・十二月・二月だった。

特に二月例会は、報告者四名司会者一名以外は二名しか参加者がいなかった。とてもいい書評会でレベルの高い話し合いができたものの、会員（幹事）の関心が低いことはとても残念だった。

卒業論文発表会ができた。二人共大学院に進学しており、これからの研究も期待できる。

県外報告者が多かった。（山崎氏一月、藤原氏二月・五月、小川氏二月、氏戸氏六月）

したがって、交通費補助も例年の倍以上になってしまった。

幹事の報告が少ない（本多・小林・森田・柴・前田・三宅が報告）。

会場はなんとか確保できたが、教育会館や歴史博物館以外だと、参

加者が一桁になってしまふ。

報告者、報告内容によって参加人数に差が出る。

報告内容は、中世に偏ってしまつた。古代1、中世9、近世が1で大きくバランスを欠いてしまつた。（七月例会は近世の予定であつたが、急ぎよできなくなつてしまつた。）

※会計報告・予算等は三・四頁に掲載した。

会報の発行 二五七号〜二六二号、計六号発行した。

歴史随想 第二五八号 静岡の一大発展期としての鎌倉時代 廣田浩治

第二五九号 村岡幹生氏の批判に答える 小林輝久彦

第二六〇号 『宗及茶湯日記』における「御家門様」の人物比定を中心に 高橋陽介

第二六一号 戸田憲光の討死―松島論文に接して― 小林輝久彦

例会の開催 十月例会 十月二十六日（土）静岡歴史博物館講座室十五名参加

書評会 原田千尋氏著『今川義元―守護大名から戦国大名へ―』

書評者 森田香司氏・前田利久氏・小林輝久彦氏

◆十一月例会 十一月二十三日（土）あざれあ第1会議室（六名参加）

書評会『諸国往反の社会史』 森田香司氏

◆十二月例会 十二月七日（土）静岡県教育会館階D会議室

（五名参加）

駿河国における駿河半紙等の生産・流通について 柴 雅房氏

◆一月例会 一月二十五日(土) 静岡歴史博物館講座室十四名参加

今川氏の三河吉田領支配について

◆二月例会 二月十二日(土) 山崎裕太氏 沼津市立図書館四階第三講座室 (七名参加)

『領主層の共生と競合』(高志書院)の書評会

書評者 森田香司氏・三宅真人氏・小川雄氏・藤原大志氏(葛飾区教育委員会事務局生涯学習課)

◆三月例会 三月一日(土) 静岡県教育会館地階D会議室 (十一名参加)

卒業論文発表会 「国造軍」の構造と運用 池田太一氏(静岡大学) 豊臣期武家官位制の構造と公武関係 関 翔氏(静岡大学)

◆四月例会 四月二十六日(土) 静岡市歴史博物館講座室(十七名参加) 書評会『東海の中世史』第1〜3巻 書評者 廣田浩治氏・森田香司氏

◆五月例会 五月二十四日(土) 静岡県教育会館地階C会議室 (一六名参加)

書評会 『東海の中世史』第4巻・第5巻 書評者 第4巻 藤原大志氏・第5巻 本多隆成氏

◆六月例会 六月二十一日(土) アクトシティ研修交流センター四〇三会議室(十七名参加)

議室十七名参加

那古野今川氏と伊勢今川氏の興亡―尾張と伊勢に展開した今川氏の系譜― 氏戸佳香氏

◆七月例会 七月二十六日(土) 静岡県教育会館地階C会議室(十名参加) 総括『東海の中世史』―谷口氏のコメントを受けて― 森田香司氏 (岡崎佑也氏の報告は延期となった。)

二〇二五年度役員 森田事務局長から新年度役員について次のように提案があり、全会一致で承認された。

顧問 本多隆成(静岡大学名誉教授) 会長 小和田哲男(静岡大学名誉教授) 事務局長(会誌査読) 森田香司(広沢小)

幹事(会計担当) 三宅真人(静岡市歴史博物館) 幹事(会誌担当) 厚地淳司(駒澤大学)

幹事 北村 啓氏(清水桜が丘高) 幹事 小川隆司(島田高) 幹事 柴 雅房(県立中央図書館) 幹事 坪井俊三(浜松市文化財保護審議委員)

幹事 西田かほる(静岡文芸大) 幹事 岡村 龍男(豊橋市立図書館) 幹事 小林輝久彦(浜松西税務署) 幹事 望月保宏(放送大学静岡学習センター)

幹事 鈴木将典(静岡市歴史博物館) 幹事 貴田 潔(静岡大) 幹事 今村直樹(熊本大学)

幹事 松本和明(静岡岡大学) 会計監査 青木茂久(焼津市歴史民俗資料館) 古文書講座講師) 会計監査 前田利久(諏訪原城整備委員会委員)

昨年度より一名増え、松本氏を幹事とした。また会計には北村氏に代わり三宅氏をお願いした。会誌査読担当の名前は、査読の公平を期すため、外したが、査読は複数で行う。

二〇二五年度活動方針 新年度の活動方針について、森田事務局長より次のような提案が示された。

〈例会の充実〉 一例会 報告を充実させていく。年間十回の例会をきちんと行っていく。二月は東部例会で例年楽寿園内三島市郷土資料館をお借りしている。

年二回は、静岡市歴史博物館との共同開催とし、講座室を無償で借用させていただく。三月は学生の卒業論文発表会の予定。例会をきちんとやっていくだけでなく、例会報告の内容を充実させていく。また、地域にも報告者を要請し、多角的な視点や最新の研究成果の研究報告を進める。

そして、最新の研究成果や他地域の研究者に積極的に声掛けして報告を依頼する。(会誌第十六号の発行)

昨年同様、会誌担当厚地氏を中心に編集していく。査読の統一を図るため、査読検討会を四月か五月の例会前に行う。(会報の発行) 年間六回の会報を発行するだけでなく、

会報の内容を充実させる。なお、例会が一報告になったことにより、報告要旨が少なくと紙面が埋まらないので、報告者は今までより多く、十五字×六〇行×九〇行で書いていただきたい。

〈会費納入〉 昨年度は一〇四名の会費納入者であった。二〇二五年度予算

新年度予算は北村啓氏から提案され、承認された。今年も振込用紙を同封しますので、振込をよろしくお願ひします。

〈その他〉 〈来年度総会について〉 総会で以下のように提案し了承された。来年の総会には記念講演を依頼し、その分野は中世史とする。

〈他の研究会との交流〉 今までは、静岡県近代史研究会のみとの交流であったが、昨年度より静岡県富士山遺産センターとの交流も行っている。必要な情報等は会報に掲載していく。

〈ホームページの運用〉 例案内や会報は、ホームページに掲載し、会員には個別にメール配信や葉書案内をしない。例会はほぼ第四日曜日のため、ホームページを参照されたい。

六月例会 六月二十一日(土) アクトシティ研修交流センター四〇三会議室(十七名参加)

那古野今川氏と伊勢今川氏の興亡―尾張と伊勢に展開した今川氏の系譜―

例案内や会報は、ホームページに掲載し、会員には個別にメール配信や葉書案内をしない。例会はほぼ第四日曜日のため、ホームページを参照されたい。

六月例会 六月二十一日(土) アクトシティ研修交流センター四〇三会議室(十七名参加)

那古野今川氏と伊勢今川氏の興亡―尾張と伊勢に展開した今川氏の系譜―

例案内や会報は、ホームページに掲載し、会員には個別にメール配信や葉書案内をしない。例会はほぼ第四日曜日のため、ホームページを参照されたい。

六月例会 六月二十一日(土) アクトシティ研修交流センター四〇三会議室(十七名参加)

那古野今川氏と伊勢今川氏の興亡―尾張と伊勢に展開した今川氏の系譜―

例案内や会報は、ホームページに掲載し、会員には個別にメール配信や葉書案内をしない。例会はほぼ第四日曜日のため、ホームページを参照されたい。

六月例会 六月二十一日(土) アクトシティ研修交流センター四〇三会議室(十七名参加)

那古野今川氏と伊勢今川氏の興亡―尾張と伊勢に展開した今川氏の系譜―

例案内や会報は、ホームページに掲載し、会員には個別にメール配信や葉書案内をしない。例会はほぼ第四日曜日のため、ホームページを参照されたい。

氏戸佳香氏

本報告は、尾張国那古野荘を本貫とする那古野今川氏とその分流である伊勢今川氏の興亡を、系譜的展開を中心に検証した。一次史料と先行研究を基に、以下の三点を詳細に考察した。第一に、那古野今川氏の出自と系譜を分析。足利(吉良)氏を源流にもつ今川氏が、公家との婚姻を通じて那古野荘に基盤を確立し、室町幕府奉公衆一番衆として独自の地位を築いた過程を解明した。『難太平記』から公卿との重縁関係が確認され、建武年間の新田義貞との戦いで武功によって足利尊氏から「御一流」と承認され駿河今川氏の連枝となった。『水野家文書』にみえる今川三郎朝氏や『応永記』に見える今川名越三郎もその系譜に連なると推定した。第二に、明応の政変や遠江係争を背景とする那古野今川氏の没落と、「尾之今河氏」の存在を検討。『船田後記』の「尾之今河氏」は、那古野今川氏とは別系統の尾張守護今川氏後裔と推定し、那古野今川氏の没落は、斯波氏被官による押領が原因とした。『実隆公記』にある水野氏の愛知郡進出や、織田氏の愛知郡への進出によって今川の影響力が低下していたことを確認。永正年間における那古野新五郎による復興と、今川氏豊期の那古野城陥落による滅亡も検証。『名古屋合戦記』の氏豊は新五郎と竹王丸の事績を統合した人物像と推測し、織田信秀の奇襲が滅亡の契機とした。第三に、伊勢今川氏の成立と活動を解

明。『親元日記』や『応仁別記』から、応仁の乱期に外様衆として禁裏警固を務め、戦国期には北畠氏仕え、後に織田氏鞍替えして存続した経緯を分析。『織田信雄分限帳』の今川源三郎や『勢州軍記』の今川氏朝がその後裔と推定した。今後の課題として、駿河今川家との関係性や伊勢今川氏の系譜的繋がりさらなる解明が求められる。本報告では、那古野今川氏が地域的変遷の中で独自の存立基盤を模索し、伊勢への分流を通じて存続した一族であることを明らかにした。

【例会案内】
★十一月例会

十一月二十二日(土) 午後三時～
静岡市歴史博物館講座室
静岡市歴史博物館所蔵三浦文書の見学及び史料解説 鈴木将典氏

事務局より

へ 訃 報

去る十月十三日、前会長である川崎文昭氏が永眠されました。(享年八三歳)
川崎氏は、会発足時より事務局長を担当し、二〇〇一年～六年まで会長を務められました。ここに弔意を表し氏の冥福を祈りたいと思います。

① 歴史随想の募集・研究報告の依頼

幸い、報告希望の方が多く、二月までは報告者は決まっています。

2024年度静岡県地域史研究会決算書支出の部

No.	科目	予算額	決算額	対予算比	内 訳
1	会場費	30,000	29,820	-180	教育会館4回、静岡市歴史博物館3回 *、あざれあ、沼津市立図書館、アクティ浜松
2	例会案内・郵送費	50,000	25,520	-24,480	会報郵送代・切手代等
3	会報印刷費	25,000	0	-25,000	インク、コピー代等
4	交通費補助	50,000	70,000	20,000	1・3・5・6月各1人、2月3人、計7名
5	会誌編集刊行費	200,000	164,338	-35,662	14号会誌 印刷・郵送・校正等
6	事務費	15,000	30,157	15,157	コピー・インク・封筒・通信費等
7	総会費	115,000	82,900	-32,100	会場費、総会資料コピー、講師謝礼等
8	予備費	698,000	35,099	-662,901	ホームページ(スマイルサーバ)利用料
	合計	1,183,000	437,834	-745,166	

三月は卒業論文発表会のため、静岡大や静岡文芸大にお願いしていきます。
(事務局連絡先)
〇九〇―七〇三―一〇七三三
森田香司

② 会費納入のお願い
会誌一五号に振り替え用紙を同封します

③ なお、本年度の例会百及び例会会場を 四頁に掲載しましたので、会員の皆様にはくれぐれも間違わないよう、また、多数御参加いただければ幸いです。

2024年度決算書収入の部

No.	科目	予算額	決算額	対予算比	内 訳
1	繰越金	848,857	848,857	0	前年度繰越金
2	年会費	324,000	321,000	-3,000	総会 27 名、例会 4 名、振込 64 名、過年度分 9 名、合計 103 名分 94 名×3,000 円 + 9 名×4,000 円=321,000 円
3	書籍売上	10,000	41,000	31,000	
4	雑収入	143	0	-143	
	合計	1,183,000	1,210,857	27,857	

2025年度予算案収入の部

No.	科目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内 訳
1	繰越金	773,023	848,857	-75,834	
2	年会費	330,000	324,000	6,000	3,000 円×110 名
3	書籍売上	10,000	10,000	0	1,000 円×10 冊(ホームページ開設により増加傾向)
4	雑収入	77	143	-66	
	合計	1,113,100	1,183,000	-69,900	

今現在の予約状況(すべて土曜日です)

- 10月25日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 11月22日 静岡市歴史博物館講座室依頼済済
- 12月6日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 1月24日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 2月21日 三島市郷土資料館講座室予約済
- 3月7日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 4月25日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 5月23日 静岡県教育会館地階D会議室予約済
- 6月21日 アクティビティ研修センター予約予定
- 7月25日 静岡県教育会館地階D会議室予約済

2025年度予算案支出の部

No.	科目	本年度予算額	前年度予算額	対前年比	内 訳
1	会場費	28,940	30,000	-1,060	静岡歴博 1,250×2 回、教育会館 3,700×6 回、三島市郷土資料館(無償)、アクティビティ浜松 4,240
2	ホームページ運営費	54,780	0	54,780	新設。(利用料 4,400+振込手数料 165)×12ヶ月
3	交通費補助	50,000	50,000	0	例会交通費(東京等遠方より)10,000×5
4	会誌編集刊行費	200,000	200,000	0	15号会誌印刷・郵送・校正等
5	事務費	30,000	15,000	15,000	コピー・インク・封筒・通信費等
6	総会費	115,000	115,000	0	会場費、総会資料コピー、講師謝礼、文字起こし等
7	予備費	634,380	698,000	-63,620	
	合計	1,113,100	1,108,000	5,100	

静岡県地域史研究会報
第263号
2025年11月5日発行
静岡県地域史研究会
<https://www.shizuoka-chiikishi.jp/>
<shizuokachiikishikenkyukai@gmail.com>
会長 小和田哲男
事務局長 森田香司 090-7023-0733
会計担当 三宅真人 080-4037-8478
〔会費納入先〕
三宅真人 気付 TEL080-4037-8478
郵便振替口座 00880-3-63062
(年会費 3000 円)

繰越金 773,023 円
(会計監査報告)
2025年9月7日 監査の結果、上記の通り相違ないことを認めます。会計監査 小川 勝 青木茂久

